

平成 23 年度

事業所名 : グループホーム すりさわ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900165		
法人名	特定非営利活動法人いわい地域支援センター		
事業所名	グループホームすりさわ		
所在地	岩手県一関市大東町摺沢字但馬崎25番地16		
自己評価作成日	平成24年 3月19日	評価結果市町村受理日	平成 24年 4月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosisp/infomationPublic.do?JCD=0390900165&SCD=320&PCD=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成24年 3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日の買い物など外出の機会を多く持つことにより地域の一員として生活できるよう、疎外感のないよう支援しています。
 ・「〇〇したい」を応援し、生き生きと生活できる環境づくりを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは、NPOいわい地域支援センターの運営する事業所である。平成16年から、隣接の宅老所「すりさわ」において地域の高齢者のサービスや居宅支援事業に当たってきたが、より地域密着の福祉充実に向けて、23年3月より、グループホーム「すりさわ」を開設したものである。一年前に開設した同法人営のグループホーム「なかがわ」とともに、一関大東地域の「安心して豊かな心で生活を送れる地域社会」づくりの一翼を担っている。利用者は、訪問看護ステーションの毎週の訪問を受け、又、職員の支援と寄り添いを受けながら、安心した生活を続けている。とりわけ、このホームは、食事づくりに、買い物から下ごしらえ、味付けから片づけまで利用者全員が関わっているのが印象的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名：グループホーム すりさわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	食堂兼居間に掲示し、常に念頭において支援しています。 また、「〇〇したいを応援します。」を介護目標に個々の生きがいがづくりを支援しています。	開設一年を迎え、法人全体の理念は概念として定め、グループホームとして具体的な理念について現在見直しをかけるため2に職員と話し合いを持っている。「誰にでもわかり易く」を目標とし、尊厳を重視した検討が進められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	推進会議に地域住民の代表者に出席いただき情報交換を行っています。 また、日常の買い物で近隣のお店で購入することで交流を図ったり、地域のイベントや文化祭に参加しています。	ホームの立地場所が、比較的人通りの多い商店街の中にあり、買い物など往来する地域の方と気軽な挨拶を交わすなどして交流を図っている。開設1周年を機会に、見学会を開き地域住民や幼稚園・小中学校へ声掛けしてホームへの理解を深め、日常的な交流に努めたいとしている。	ホームの「家庭菜園」を通じた交流や民家の縁側をお借りした「お茶のみ」交流など、身近なことから、近所づきあいの輪を広げてゆくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開所前3月17日に地域の方を対象に研修会を開催しましたが、その後は開催していません。見学の受け入れは、随時行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月と6月以降は2ヶ月に1回開催しています。生活の様子を報告し、意見・助言・要望等をいただきサービスに活かしています。地域の代表構成員の方には、町内会長や行政区長とのパイプ役を担っていただいております。	会議内容は、新年度の事業計画や地域との交流・つながりなどについて、熱心に協議がなされている。特に、委員には地域との橋渡しの役を担ってもらうなど、ホーム運営のサポーター的存在となっている。今後は、委員のホーム生活への参加なども考えたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連携は、運営推進会議に参加していただき、サービスの取り組み方などへの助言をいただいたり、入居の方の生活の様子を報告しています。	会議のみならず、介護相談員の来所を含め、普段から運営や利用者の状況について、連絡・情報交換が密に行なわれている。市と運営者等職員は、顔見知りの関係でもあり、訪問や電話連絡を含めて、円滑な関係がつけられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人及び事業所として「身体拘束排除・虐待防止宣言」を行い、宣言を掲示するとともに、身体拘束排除に関するマニュアルに基づき、見守りに重点をおき身体拘束は行っていません。 施錠も日中は、行っていませんが、夜間のみ防犯のため施錠しています。 転倒防止のため、人感センサーを使用していますが、センサーで行動が制限されないように職員間で注意しています。	「身体拘束ゼロを目指して」(資料)等の内容について、全職員で共有・確認しあい、肝に銘じながら日々のケアに当たっている。特に、法人・内部研修においては、ホームに関する事例(センサー使用、車椅子ベルト使用、声がけなど)について、カンファレンスにおいて徹底を図っている。普段のケアでは職員相互にそれぞれ気がついた点について、その場で注意・言い合えるような、職員の信頼関係や連携が図られてきている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人及び事業所として「身体拘束排除・虐待防止宣言」を行い、宣言を掲示して、虐待のないように職員に周知徹底を図るとともに、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施できていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書をもって説明をし、質問や疑問、要望をお聞きしています。その上で理解・納得をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しています。また、口頭のご意見・要望などは、迅速に対応するよう心掛けています。 ご家族様の面会時や電話で生活の様子をお伝えするとともに、何か要望やご意見がないか伺っています。出された要望・意見は連絡ノートに記載し全職員に周知するようにしています。	新たなホームということもあり、運営に関しては、意見箱や口頭を含めて出された意見等はないが、「食事の量と健康状態」や「居室へのテレビの設置」など生活面についての相談は時々出されており、速やかに対応している。今後とも、定例的な広報発行により信頼関係を密にしながら、普段の面会時やイベントなどで家族の集まる機会には、気軽に話しあえる場を設けるなど、環境整備に努めたいとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案を管理者をとおして代表者に報告・相談し、改善できるものは早急に改善するよう努めています。 また、月1回のカンファレンス時には理事長も出席しており、職員の意見を聴いています。意見は備品の購入などに反映されています。	毎月の職員会議・カンファレンスには、運営者も参加して、意見交換をしている。夜間等の緊急時の対応やトイレへの補助暖房の設置など運営から設備品まで広く意見が出されていて、1週間を目途に対応方針を示すよう努めている。又、コミュニケーションの意味から忘年会や種々の会合を設け、職員の声を汲み取る機会作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して代表者へ状況報告をしています。 必要な環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のカンファレンス時に理事長の講話や勉強会をしています。また、個々のケアの実際と力量の応じ、法人内外の研修を受ける機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のグループホームとの管理者会議を必要に応じて開催し情報交換を行ってきました。他のグループホームやデイサービスとの交流の機会を通じて交流を図りました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査を担当する職員が行い、本人と面談して要望や不安なことなどをお聞きしています。また、家族や居宅介護支援事業所、介護サービスを利用している事業所からも情報を提供していただき、安心して入居できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前調査を担当する職員が行い、家族と面談して要望や不安なことなどをお聞きしています。事前に見学していただいたり、施設のサービス内容を説明しながら要望・質問に答えて、不安が軽減できるよう配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望をお聞きするとともに、ADLの状態を把握し、必要とする支援を知るよう努めています。 医療ニーズの高い入居者には医療連携を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食や夕食の献立を考えたり、畑仕事や料理、慣わしなど人生の先輩として知恵やアドバイスをいただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月広報を郵送してグループホームでの生活の様子を伝えながら、家族状況を考慮し、通院や外出、日用品の購入など協力をいただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの医院や今まで行っていたお店や理美容所に行くことで、人との交流ができるようにしています。	友人知人、ご近所親戚の方々の来訪のほか、行きつけの理・美容院で楽しい時間を過ごしている。秋の彼岸には、墓参りをしながら、ご近所の皆さんと旧交を温めている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係についてカンファレンスなどで職員間で情報を共有し、座席の工夫や余暇活動を通して交流が持てるよう支援しています。また、職員が間に入り孤立せず友好的関係が築けるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者がまだありませんが、退所時の相談に応じ、居宅サービスに係る情報提供や医療機関への情報提供など連絡・調整を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話を通じて意向・希望を把握できるよう努めています。 職員は本人とのかかわりの中で、意向を把握しており、月1回のカンファレンス時に情報交換し、サービスに反映させています。	基本情報や普段の寄り添いの中から得られた気づきを記録し保存し共有しあいながら、利用者の「したいことを支援する」という介護目標にそって本人本位に寄り添っている。今後は、皆でセンター方式の研修をしながら、より利用者の思いに、添うことが出来るように努めたいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前事前調査時や入居後も本人や家族からどのような生活をされていたかをお聴きしたり、入居後もどのような所に住んでいたか確認し、混乱することなく生活できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、連絡ノートを活用し現状の把握に努めるとともにカンファレンス時に職員が情報を共有できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の本人との会話の中や家族との面談の中で意向を話し合ったり、問題点や希望などカンファレンス時に話し合い、ケアに取り組むとともに介護計画を作成しています。	居室の担当を含めて、全職員で介護記録を記入し、その介護記録をもとに、計画作成担当者が毎月モニタリングを重ね3ヶ月ごとに、カンファレンスで職員の意見を聞き家族の意見も加えながら、見直しをしている。今後は、居室担当者の役割について、協議検討したいとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録と連絡ノートで日々の様子や気づきなどを職員間で情報を共有し、支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて、本人、家族の要望をお聞きしサービスの提供や変更を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回数は少ないですが、地区の公民館での行事や地域のイベントを見に行ったり、地区に祭りに参加したり、町内会の文化祭に出店したりして、地域の一員として生活を送っていると思えるよう支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望されるかかりつけ医に受診しています。かかりつけ医が変更になる際は、ご本人ご家族が納得の上変更しています。受診の際には、家族の通院介助を原則としています。家族が、必要に応じ職員が同行しています。家族が通院介助できない時は職員が行っています。	今のところ、かかりつけ医の変更はない。定期的な通院については、家族同行とし絆を大切にしている。緊急時や遠方家族の都合の悪い場合などの通院については、職員が臨機応変・柔軟に対応している。同行の際にはホームでの介護・バイタル等必要な資料を作成・持参させるなど、かかりつけ医との円滑な連携には、特に心を配っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回は、委託している訪問看護ステーションより訪問看護師が来所して、全入居者の健康観察を行っており、必要に応じて情報提供しながら相談・指示を得ています。入居者様の体調不良時にも随時連絡をとって情報を伝えて指示を得ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には家族、医療機関と事業所間で情報交換に努め、対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議に説明をして意見をいただきながら重度化指針の見直しを行い、重度化指針を家族には配布し、家族からの問合せにその都度対応して来ました。また、職員への周知においても重度化への対応について研修を行い、本人や家族が不安にならないよう支援しています。	本年度、法人営の二つのホームにおいて、重度化・看取りの指針を作成し、家族や職員に説明している。利用者家族とは随時変化等に応じて、話し合いを重ねながら、普段の安心な生活につなげたいとする。職員については機会をみながら、看取りなどの対応方法について研修などを行い知識や技術の習得・共有に努め、その実践に備えたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会を開催して職員は受講したり、避難訓練を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定での避難訓練を実施しています。夜間想定はまだ実施できていません。	定期的な訓練は通報訓練など火災想定で日中に行われている。地域の方への協力依頼・体制構築は、今後の課題として考えており、推進会議や近隣の方々の意見等を得ながら、出来ることから具体的に進めていきたいとしている。	ホームの立地状況や地域の実情に合った、災害への協力体制の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護に関する規程及び運営管理規程に基づくとともに、接客研修を行い、人格を尊重し、不快な思いをさせないような声かけを行うよう配慮しています。大きな声や命令口調にならないように心掛け、入居者の気持ちや誇りを傷つけないよう、また、不安な気持ちにさせないよう支援しています。	法人の接客研修(近くでの声かけ、利用者のペースに合わせるなど)に参加して意識の高揚・共有・実践に努めている。利用者の呼び方は、「さん」付けで、排泄等への声かけは近くで小声でやさしくなど、尊厳とプライバシーに配慮した対応に努めている。又、出来ることは役割としてお願いするなど、尊厳にも心配りをしている。個人情報については記録のパソコン処理などプライバシー保護に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に希望が話せたり、自己決定しやすい雰囲気づくりに心掛けています。上手く表現できないケースは、職員が読み取り代弁するようにはしていますが、一方的に決めつけるのではなく意思の決定を待つように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて生活できるよう支援していますが、職員のスケジュールに沿って動く傾向にあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋、美容院などなるべく本人の要望をお聞きして、家族に連れて行ってもらうたり、職員が連れて行ったりして支援しています。その日の服装も本人に任せていますが、職員が助言することもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、バランスに配慮しながら好みのメニューを取り入れながら昼食と夕食の献立を考えてもらい、買い物をして、調理を行っていただいています。配膳や後片付けを手伝っていただいています。季節の行事には、みんなで料理を作ります。また、制限食などの工夫もしております。	「食べることは大きな楽しみ。とりわけ食べたいものを食べる事の幸せ。」という事から利用者の希望を聞いてから献立を作り、買い物も皆で行ないそれぞれに出来ることにかかわりながら、利用者全員で食事づくりを楽しんでいる。職員は、切り方・味付けなど、人生の先輩である利用者から教えられることも多く一緒に汗を流している。減塩食の提供など、利用者の体調や状況に合わせた食事にも、心配りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事量、食事形態の工夫をしています。食事量、水分量の摂取を記録しており、十分な食事ができないときは補食を勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい、歯磨き、義歯の手入れの声かけ、介助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声がけ誘導するとともに、表情やしぐさから排泄のサインを読み取り誘導しています。	かかりつけ医との連携の下、薬剤調節により失禁が改善され成功した例もある。排泄チェック表を利用者個々に合わせて活用したり、職員の適時・適所の声がけなどで殆どの利用者はトイレでの排泄が可能で表情が良く、生き生きとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排便の把握し、訪問看護師に相談しながら便秘薬の投与をしています。また、乳製品をメニューに取り入れたり、軽い運動などで自然排便ができるよう予防に心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日は決まっていますが、その時々で柔軟に対応し、一人ひとりのタイミングで入浴できるように、また、入浴時に声がけし、入浴したくない日は翌日に入浴していただいたり柔軟に対応し、急がせることのないよう支援しています。	入浴は一日おきを目安に声がけしている。利用者はヒノキ風呂の香りを楽しんだり、職員と話したり、入浴・保湿剤の使用などで楽しんでいる。入りがらない人には、無理強いはいないものの、根気強い声がけや、立ったタイミングを見逃さず声をかけるなどにより入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パブリックスペースにも、コタツ・畳・ソファベッドなど休みたいところで、休めるようにしています。日中はレクリエーションや体操を行い夜間の安眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに綴りいつでも職員が見られるようにしています。薬が変更になった際は連絡ノートに記入し全職員が把握するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリとして、献立作成から買い物、調理、後片付けと一連の作業を行っていただき、その人ごとの役割を持って生活できるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物など職員の声がけによる外出が主ですが、本人の希望により本屋に行くなどしています。また、地域のイベントにも出かけていますが、家族の支援を得ようと企画して、風邪の流行でできなかったことがありました。	利用者の希望を聞きながら、車での遠出のドライブ（桜や藤の花・アジサイ見学）のほか、普段は、近くのスーパーや出店での買い物、美容院などに出かけている。これからも家族の協力を得ながら、ふるさと訪問やお墓参り、祭りなどに天候や体調なども相談しながら、気分転換や運動を兼ねて出かけたいたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が家族の了解の下でお金は持たれていますが、知人等から見舞金をいただくことがあり、その時は預かり家族に渡すようにしています。本人の希望する買い物は家族に話し、立替えの形で利用していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	開所当初は、電話ができないことでしたが、2カ月目からは希望がある時は電話できるようにしました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度など空調や廊下の明るさに配慮して来ました。食堂兼居間には、コタツやソファ、畳、テーブルを置いて好きなところでくつろげるようにしたり、日めくりやカレンダー、新聞を置き今日が何日か何曜日かわかるようにしたり、季節感のあるタペストリーを吊したりして落ち着ける空間づくりに努めています。	利用者の集るホールは程よく陽が射し、コタツやソファ、テレビが置かれ、小上がりには畳が敷かれ、また食堂のテーブルには其々に気の合った利用者同士が語り、なんとも和やかな雰囲気が漂っている。洗面所の蛇口や流しの深さ、トイレの手摺の配慮等利用者の生活を理解した設えで、安心して暮らせる配慮が随所に見られる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間には、コタツやソファ・畳・テーブルを置いて、また、廊下にソファを置き、その時々で好きな居場所を選べるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、使い慣れた物を自由に持ち込んでいただいています。持ち込むモノが少ないです。	備え付けのクローゼットやベッド、時計やテーブルを活用しながら、カレンダーや家族の写真などを思い思いに置いたり掛けたりしている。入り口には、それぞれの表札や自慢のノレンが飾られ、わが家を演出して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には、本人、家族の了解のもと表札をかけて自分の部屋がわかるようにしています。また、部屋の入り口やトイレに表示して混乱しないで安心して生活できるよう支援しています。		